



べっ子の共育

～学校だより・つなぐ4月号 巻頭言として～

令和6年4月8日（月）

発行：摂津市立別府小学校

校長 田中健一郎

今年はいつまでも寒さの続く3月だったからか、校庭を囲む桜の木々も昨年よりも少し遅れて美しいピンクの花を咲かせ始めました。春の匂いがします。ここから一気に春爛漫になるのでしょうか。ずっと待ちわびていた季節が巡ってきました。

保護者の皆様、お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。これから始まる一年間が、子どもたちにとって、そして保護者の皆様にとっても実りの多い充実した時間となることを願っております。

今年度も別府小学校の校長を務めることになりました田中健一郎です。この別府小学校に教頭として3年間、そして校長としても3年関わり、新たにこれから始まる一年もここで働けることを大変光栄に存じます。新しい子どもたち、一回り成長した子どもたち、そして保護者の皆様とともに、また新しい別府小学校をつくっていききたい思いであふれております。どうぞよろしく願いいたします。

学校だよりの発行に合わせて、校長通信を出そうと考えました。これまでも4月号のたよりには校長の一言スペースがあったのですが、もっと保護者の方に学校のことを知ってもらいたい、私や教職員の思いや考えを知ってもらいたいと思い、毎月発信させていただこうと決めました。できればおカタい文章、美辞麗句に終始しないよう、皆様に毎回楽しみに読んでもらえるような内容にチャレンジしていきたいと思っております。ああ、自分でハードルを上げてしまいました笑。がんばります！

さて、この春、学校教育目標を一新しました。学校教育目標とは、どのような学校をつくりたいかという目指したいゴールイメージを文章で表したものです。下記の2つの目指すゴールイメージを考え、これらを実現することを学校教育目標としました。

【目指す学校像】

誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校 ～全ての子どもに居場所がある学校づくり～

【目指す子ども像】

感性豊かに育つ子・自分らしく私らしく生きる子・みんなと心をつなげる子

この2つの実現が学校教育目標

もちろん、学校教育目標はこれまでもありましたが、私がこの学校に着任するずっとずっと前に作られたものでした。その目標もとても素晴らしい理念を表したものではありませんでしたが、今日の前にいる子どもたちに合ったものになっているだろうか？この目標を本当に実現しようと全ての教職員が意識して教育活動にあたっているのだろうか？そして保護者や地域はその目標や理念を知っているのだろうか？という疑問が私の中にずっとありました。

今日の前にいる子どもたちに関わっている私たち教職員が、別府小学校の子どもたちをどのように育てたいのか？そして、どのような学校を作っていきたいのか？ということは今一度考えなおしたい。そして、教職員だけでなく、保護者・地域の方々といった子どもたちに関わる全ての大人たちがそのゴールイメージを共有しながら、思いを共にして子どもたちに関わり育てることができたなら学校は変わっていくのではと考えました。

各家庭、大人、そして社会が子どもたちに求めることは様々ではありますが、我々別府小学校の教職員がまず一番に大切にしたいことは全ての子どもたちに「6年間を楽しく学校で過ごしてほしい」、そして「幸せになってほしい」と考えました。この願いはおそらく全ての保護者の方も同じではないでしょうか。

「楽しく」感じること、「幸せ」を感じることは、人それぞれ。何の基準でその度合いを測るのかを決めることは難しいところです。ですが、今自分が「楽しく」感じているのか、「幸せ」を感じているのかは全ての人が自分に問うことができるはず。大人はもちろんですが、子どもたちは「楽しい」や「幸せ」といった感覚を感受することができる素晴らしいアンテナを生まれながらにして持っています。その感度を鈍らせたくありません。

本来、学校とは、自分とは違う他人とつながりながら「楽しく」過ごす場所であり、まだ知らないたくさんの知識・技術・経験・考え方などを自分の力とするために「楽しく」学ぶ場所であるはず。そして、その学びを通じて自分の可能性を広げて「幸せ」になることを目指すとともに、その力を生かして社会の「幸せ」をつくることのできる人間に育てる場所であると思います。しかし、その本来大切にしたい当たり前のことが、今の日本の教育の在り方、社会や我々大人が求め生み出した学校の姿と言った現実とのギャップの中で埋もれてしまっているように感じます。

ここをスタート地点として、これから「楽しく幸せに6年間を過ごせる」学校づくりに取り組みたいと考えます。それも「誰もが」ですから全ての子どもたちが対象です。一部の子どもだけが楽しくて幸せではダメで、全ての子どもたちがそう感じられる学校を目指したい。

そして、「誰もが」には子どもたちだけではなく、我々教職員や保護者の皆様といった大人も含まれます。子どもたちを支える我々大人が、まずは「楽しく」毎日を過ごし、「幸せ」を求めて一生懸命生きることを見せることが、子どもたちにとっての一番のロールモデル、お手本となることだと思います。厳しいこともたくさんある世の中です。腹が立つことも悲しいことも不安になることもたくさんあります。でも、大人が夢や希望を忘れたら子どもたちは「楽しく」「幸せな」社会を作っていくことはできませんよね。保護者の皆様には、まずはご自分が「楽しく」「幸せ」に毎日を過ごしているだろうか？と振り返ることからご協力いただけたら幸いです。

ああ、「楽しく」「幸せ」だけで話が終わってしまった。まだまだ伝えたいことがいっぱいあったのに・・・無念。文章力を向上させなければ、ですね。どうぞ引き続きおつきあいください。5月号でお会いしましょう。

是非ともご意見をお聞かせください。Googleforms で送っていただけます。

